

2018年11月20日  
KDDI エンジニアリング株式会社

## 公益社団法人企業情報化協会の平成30年度(第36回)IT賞における IT特別賞(レガシーモダナイゼーション賞)受賞のお知らせ

KDDI エンジニアリング株式会社は、2018年11月20日(火)、公益社団法人企業情報化協会(通称:IT協会)が発表した平成30年度(第36回)IT賞において、IT特別賞(レガシーモダナイゼーション賞)を受賞しましたので、お知らせします。

本賞は、同協会が、わが国の産業界において、“ITを活用した経営革新”に顕著な努力を払い優れた成果をあげたと認めうる企業・団体に対し授与している表彰制度で、昭和58年の第1回より今年で36年目を迎えます。平成30年度は、IT賞審査委員会(委員長:斎藤信男 慶應義塾大学名誉教授)による厳正な審査の結果、計28件32社が決定しました。

来る2019年2月6日(水)・7日(木)に開催される同協会主催「第34回IT戦略総合大会(ITMC2019)」(東京・港区「東京コンファレンスセンター品川」)の会期内にて、表彰式典ならびに記念講演が行われます。

詳細につきましては、以下の同協会のニュースリリースをご覧ください。

<http://www.jiit.or.jp/information/detail/info36itaward.html>

### ■当社の受賞内容

IT特別賞(レガシーモダナイゼーション賞)

「執行責任を果たせる企業集団を目指した“コーポレート系システム再構築プロジェクト”」

### ■受賞の理由

当社の旧コーポレート系システムは、管理会計、財務会計、購買(受発注管理)、稟議、人事、勤怠管理等、コーポレート部門の情報を管理するシステムであり、2005年の会社設立当初(従業員数:約600名)より運用しているシステムでした。その後、事業規模の拡大と大幅な従業員数の増加(2018年:約3500名)に伴い、度重なる機能追加によってデータ構造が複雑化・肥大化していました。また、複数システムへの二重入力や未整理なままの業務が残存し、今後の経営戦略への対応が迅速にできないことや、内部統制的なリスクも多く存在していました。2015年度にはシステム障害と著しいレスポンスの低下が多発し、システムの更改は喫緊の課題でした。

そこで、2015年11月より検討を開始し、2016年5月より各主管部門と情報システム部が一体となった体制をつくり、コーポレート系システムの再構築プロジェクトを立ち上げました。2018年4月にサービスインを迎えたこの再構築により、以下のような成果が達成されています。

<経営課題の解消>

- ① 受注から検収にいたる一連のサプライチェーンの実現、業務標準化などによる品質、作業効率の向上。
- ② 承認行為のワークフロー化による内部統制的なリスクの解消。
- ③ 精度の高い経営情報を「見える化」し、迅速な分析が可能になることで、今後の経営課題や業務の変化に迅速な対応が可能となった。

<システム課題の解消>

- ① 類似システムの統廃合によるコスト削減(約20%)
- ② クラウド利用によるサーバー構築の工期短縮(約20%)、コスト削減(約40%)
- ③ クラウド活用などによるスケールアップ、スケールアウトが容易になり、BCP対策や性能問題への迅速な対応が可能になった。
- ④ データベース集約による情報精度向上、開発標準化による品質向上。

これらの成果を挙げたことにより、本プロジェクトは、IT 特別賞(レガシーモダナイゼーション賞)にふさわしいものと評価されました。

以上